

動脈硬化性疾患・脂質異常症 Update

動脈硬化の発症・進展には、食事・生活習慣や加齢に加えて、高血圧、糖尿病、肥満など種々の危険因子が関与しており、また動脈硬化を基盤として脳血管障害、冠動脈疾患、腎障害などの重篤な合併症が引き起こされる。超高齢社会を迎え、健康寿命のさらなる延伸を目指すわが国において、動脈硬化性疾患・脂質異常症の予防・診断・治療はますます重要になってきている。

近年、動脈硬化や脂質異常症の診断や治療に関する研究が進展し、包括的リスク評価・管理の重要性や新たな治療法も注目されている。さらに動脈硬化性疾患や、脂質異常症の発症予防、合併症の進展予防に関連して、様々なエビデンスが蓄積しつつある。2022年には日本動脈硬化学会より「動脈硬化性疾患予防ガイドライン 2022 年版」として5年ぶりに改訂、刊行され、そこでは非空腹時(随時)トリグリセライドの基準値設定や動脈硬化性疾患の絶対リスク予測ツールとして久山町研究のスコアが導入されるなど、最近のエビデンスに基づいて改訂さ

れている。

こうしたなか、本特集では「動脈硬化性疾患・脂質異常症 Update」と題して、動脈硬化性疾患や脂質異常症に関する最新の概念やそれらの診断・予防・治療について取り上げ、「動脈硬化性疾患・脂質異常症の基礎知識」「動脈硬化性疾患のリスク管理」「動脈硬化性疾患・脂質異常症に対する予防・診療の実践」という総論・各論から内容を構成した。そこでは動脈硬化性疾患・脂質異常症の診療や研究に従事する幅広い方々を対象に、第一線でご活躍のエキスパートの先生方より、基本的な考えかたから、上記ガイドライン改訂内容を含めた最新知見やトピックス、将来展望に至るまで、わかりやすく解説いただいた。本特集を通じて、実地医家やかかりつけ医の先生方はもとより、動脈硬化性疾患の診療や管理に従事するメディカルスタッフにとって Update された知識やスキルを深める機会となり、ひいては包括的な動脈硬化のリスク評価・管理のさらなる推進につながるものと期待される。

東京大学大学院医学系研究科老年病学
小川純人